

令和5年度第1回狹山市子ども・子育て会議 会議録

開催日時 令和5年8月4日（金） 午前10時00分～11時45分
場 所 稲荷山環境センター 大会議室
出席者 朝賀委員、井村委員、後藤委員、紫竹委員、鈴木委員、野口委員、
野村委員、橋本委員、濱田委員、宮野委員、安田委員、安永委員
欠席者 粕谷委員、澁谷委員、長尾委員
事務局 こども支援部長、こども支援部次長兼課長、家庭児童相談担当課長、
保育幼稚園課長、青少年課長、保健指導担当課長、学務課長、青少年
課主幹、総合子育て支援センター所長、こども支援課こども支援担当
主幹、同主事
傍聴者 0名

1 開 会

2 会長あいさつ

3 議 題

《審議事項》

(1) 学童保育室入室承認基準指数について

所管課 (資料1に基づく説明)

委 員 (質疑なし)

会 長 今後について担当課から何かあるか？

所管課 承認をいただいたので、来年度の入室審査から当該基準に従って行う。

(2) 次期子ども・子育て計画策定に係るアンケート調査について

所管課 (資料2に基づく説明)

- ・こども家庭庁が発足し、令和5年4月1日から施行された「こども基本法」に基づく国の「こども大綱」を勘案した計画を策定する努力義務が課せられていること。
- ・現在国の「こども大綱」が示されていないなか、計画策定に向けてのアンケート（ニーズ調査）を今年度中に実施しなければならないため、委員の皆さまにアンケートの実施方法や調査項目、その他子どもたちの意見の聴き方などについて意見をいただいたこと。
- ・募集期間：5月10日から6月9日
- ・9名の委員から多くの意見をいただいた。

所管課 多かった意見についての市の方向性

① アンケートの形式 ➡オンライン活用予定

② 設問数が多い・設問が分かりにくい

➡このニーズ調査の項目は、平成25年度当初の国の基本指針の調査票案を受けて県が提示した調査票案及び市が以前から実施していた「次世代育成支援行動計画策定基礎調査」を参考に調査項目及び件数を設定していることを説明

➡今後、オンラインの活用や施策に生かせる設問内容及び分かりやすい文言等を精査していくことを説明

③ 子ども・若者からの意見聴取の方法

➡聞き取り調査の実施という案が複数だされているので、子供の集まる児童館などでの聞き取り調査や、その他、先進事例の実施方法などを検討していくことを説明

委員 (質疑なし)

会長 ここで委員から出された意見について、ほかの委員から質問や意見等あったら意見交換をしたい。気になる意見などあるか？

委員 子ども達が集まる「こども会議の設置」があると良いと思うし、「川崎市こどもの権利に対する条例」のようなものがあると嬉しい。子どもの権利を確認し、どの様にまちづくりに活かしていくかを文書化する機会をつくるのが大事だと思う。

「子供の権利条約」について、皆さまの意見を聴きたい。

委員 障害の世界では、「私たちのことを私たちの居ないところで決めないで」という「障がい者権利条約」がある。子供たちの意見を聴く、または体験してもらおうという機会を作るとはとても大事だと思う。

副会長 今回の計画に取り入れようとしている「子供の意見を聴く」ことが、これからどの様に結実していくか？いきなり権利条約に一足飛びに行くのは難しいと思う。狭山の子供たちの想いや課題など、私たちが引き出し、そこから何を切り口に私たちの支援を考えていくのか。調査をしながら皆さまの意見を集約して狭山独自のものが作られていくと思う。

「当事者の意見と聴く」ことは大切であるが、たとえば「ヤングケアラ」の項目を入れた方が良いという意見もあったが、本人が気づいていない課題であったりする中、アンケートの項目を大きく変えることは難しいかもしれないが、アンケートを取りながら、今回聴きとりをやっていく中で、私たち大人は何を意識していけば良いのか？ 普段子どもと接している皆さまの意見を聴きたい

- 委員 子供たちが安心して発言できる場でないと思はないと本音は出ないと思はう。
- 会長 多くの子供たちと接しているが、おしゃべりはよくするが、しっかりとしたことを答えるとなると、かしこまってしまはう。「自分の意見を言う」機会が小さい頃から沢山あることが大切なのかもしれない。
- 委員 乳幼児の活動（赤ちゃん訪問）は以前民生委員が行っていたが、今は保健センターになっている。民生委員には児童に関する情報はあまりない。年に一度保健センターから地区の人数の情報はもらっている。現実には子供と関われない。一方、何でも情報をもらって良いのかという問題もある。障害の情報を拡散して欲しくないという方も居る。情報をどのように活用していくのかも併せて考えていく必要がある。
- 委員 子供が小1のときに虐待アンケートに意味が分からず「ある」と回答したことがあったので「アンケートの目的を理解してもらはう」ことが大切であり、また、その結果を子ども扱いせず返してこそ信頼関係が生まれると考える。
- 委員 アンケートは大人の立場で作成されているのでは？と思はう。子供の本音を聴き出すには、子供にアンケートの趣旨を説明して、子供にアンケートを作成してもらはうのはどうか。小学5～6年生なら出来るのではないか？
- 部長 「子供の意見を聴く」ことについては、市も考えていくが、市が考えると学校との協力を考えがちだが、学校側の考えを聴きたい。
- 委員 学校には様々なアンケートが山のように入っている状況。子供たちは何が何だか分からないので、「このアンケートを答えるとどうなるのか？」を知りたい。信頼関係の中でのアンケートが大切。
「市で一般的なアンケートを実施」し、「地域で顔が見えるアンケートを実施し地域づくりのきっかけづくり」になれば良いと思はう。
- 部長 本日の意見を参考に色々検討していく必要があると感じた。
当会議の皆さまには、また協力をお願いしたい。
- 会長 今後について所管課から何かあるか？
- 所管課 本日の意見を参考にアンケート形式や実施方法等と検討していく。
当会議委員改選後の10月にアンケート最終案を示し11月頃アンケートを実施する予定。

《報告事項》

(3) 本市の現況【令和5年度版】

所管課 (資料3に基づく概要説明)

委員 (質疑なし)

(4) 地域子ども・子育て支援事業の取組状況

所管課 (資料4に基づく概要説明)

会長 各事業担当課に質問等何かあれば？

委員 (4) ショートステイの利用実績が「0」が続いている理由は？

所管課 当市は日高市の一施設と契約し利用調整しているが、施設の空きが少ないこともあるが、ケース対応しているなかで別の方法で対応可能な状況である。今後は新たな施設との契約に向けて調整中である。

委員 (6) 養育支援訪問事業の実績が他市に比べて少ないようだが？

所管課 要対協で積極的にサービス導入を検討している。記載されている数字は実利用者であり、2022年は8家庭であるが利用回数は他市より多い。特にヤングケアラーでは当事業を導入し、無料で提供していく考えである。

委員 必要なところに必要なサービスをお願いしたい。

委員 (7) 地域子育て支援拠点事業での医療的ケア児の取組状況は？

所管課 9か所で当事業を行っている。医ケア児は総合子育て支援センターでの利用もある。他の子供と同様に自由に来てもらいたい。支援の必要な親子が利用しやすいように、毎月つどいの広場会議で9施設が集まり情報共有をしている。また、保育士は発達サポート研修等を積極的に受けており意識は高いと思う。医ケア児のサークル等は無いが安心して自由に来られる拠点づくりをこれからも継続していく。

委員 交流会希望の声を聴いているので、拠点事業だけではなく、市として検討して欲しい。

委員 (9) 病児保育事業の実績が少ない理由は？

所管課 祇園保育所において実施している。コロナの影響で利用控えと、対象者が限定されていること。

少数とはいえ利用ニーズはあるので引き続き実施していく。

委員 病児保育は必要なサービスなので、引き続きお願いしたい。

(5) 令和4年度新型コロナウイルス感染症に係る子育て世帯への給付金

所管課 (資料5に基づく説明)

委員 (質疑なし)

(6) その他

[委員より]

① 武蔵野学院大学公開講座の案内 (10月21日)

② 就学相談について

委員・小学校では、年長の子供たちに就学相談をして、適切な子供たちの居場所を保護者に紹介している。

・就学相談の手前の発達障害の子をどのように支援しているのか知りたい。(入間市では1歳半から手立てをしている)

所管課・発達支援に課題のあるお子さんの支援の現状については、生まれた時から分かっているお子さんの場合と、成長とともに課題に気が付く場合がある。後者については乳幼児健診の際に判り療育についての相談に移っていくことになる。市内での相談は青い実学園と児童発達支援センターあんずの2か所。この2か所が保健センター等と連携して親御さんからの発達相談を受けていく。また生まれながらのお子さんについては直接相談につながっている。また診断を希望する場合は専門の先生にお願いしたりするが、まだ様子を見たいという方も大勢いる。先生からのアドバイスをもらいながら療育に通い発達を追っていき、幼稚園等の集団生活と併用しながら育てていく形となる。就学が近くなると療育機関で就学相談を行い、どのような学校生活を送りたいかなどの考え方を整理し、教育センターの就学相談につなげ、就学先が決まったら学校への引継ぎを行うという流れになっている。

委員・(医者診断を受けずに) 大勢が様子を見てるところと、教育センターでの就学相談は保護者の希望となるところで、保護者の希望で学校に入学してしまうので、学校としては苦慮しているところ。保護者が悪いわけではないが、もう少し早い時期でアドバイスして、医者と結びついてくれるとか半年に一回相談できるとかあると教育現場はありがたい。

所管課・以前に比べて保護者が早期発見、早期療育という意識が高くなっている印象を受ける。ネットでの情報により早く発達を伸ばしたいという相談も増えている。

・相談につながれば就学につながるが、つながらないで一先ず入学を選択し先生方が苦勞する家庭もあると思う。より小さいうちからの

情報の提供や相談の在り方は課題だと思う。

委員・私たちが大変というより、子供たちが問題傾向のある子となり、地域の中で「あの子に近付いてはダメだよ」ということになってしまふ。小さいうちから訓練やコントロールしていく子とそうでない子は小学校に上がってから全然違う。地域の中で子供たちは生きていくので早いうちから対応してもらえるのが子供たちに良いので、ぜひお願いしたい。

所管課・そのとおりだと思います。

部長・今説明した保育幼稚園課長は、青い実学園園長だったので説明した。市立で専門の学園をもっているのは珍しいことで、職員も専門性をもって励んでいるところ。子供たちの今後のことについても親身になって相談にのったりアドバイスや提案をしている。

・子供の状況の受け入れが難しい保護者には、急がないような形で進めているので、入学後に出てきてしまうことがあるのかなと感じる。その辺りについて、あんずの会の井村委員はどう思われるか？

委員・育てにくさのあるお子さんのお母さんは、お母さん自身も生き辛さを感じてきた方が結構多いように聞いている。子育てプレイス等に来た時には注意深く支援するなど。発達障害のお子さんのお母さんの何パーセントかが発達障害ということを知ったことがあるので、フォローが必要だと思う。

・熊谷市では、研修を受けた職員が「怒鳴らない子育て講座」を年4回開催。少人数でのロールプレイをして、子供との関わり方を学んでいる。子供への支援も必要だが、家族（特にママたち）に対しての支援も必要だと思った。

部長・「怒鳴らない子育て講座」は家庭児童相談室の方で行っている。宣伝不足で申し訳ない。人数に限りはあるので家庭児童相談員が声掛けをしながら行っている。

・色々な立場の委員から意見をもらいありがとうございました。

委員・近所に放課後デイで働いていて、ご自身の子供も自閉症の方が青い実学園について、「うちの子は早く青い実学園に行けて良かった」と言っていたが、成長段階の途中で分かった時は、一緒くたに切っただけでなく、どこで分かるかは、家庭ごと子供の状況で違うので、そこは勘案して欲しい。参考にしてもらいたい。

会長・さっき話の出た子育てプレイスをやっている。0歳からお母さんが遊びに来る中で、健診の1回では分からない「気付き」についての研修を受けている。遊ばせている中での「違和感」を大切にしながら、保健センターと連携をとりながら対応している。

・保健センター、プレイス、家児相を含めた情報交換の会議を実施し、

こども一人ひとりの検討をしている。全員は拾えないが、小さいうちからということをお母さんにも思っている。

- ・近年ネットで情報を見てしまって、問題ないのに心配してしまうお母さんも居る。また、ネットで見て大丈夫！と思ってしまうお母さんも居る。職員は勉強しながら、お母さんとの信頼を築きながら、お母さんの中で受け入れてもらえるようにしている。
- ・地域ごとのプレイスで連携をとりながら見守ることの強化を行っている。学校での活動はまだまだなんだと気付かされた。

〔事務局より〕各種事業の資料による説明

① 子ども子育て応援金の説明

市独自事業、0歳から高校生まで一人3万円（所得制限なし）
市からの児童手当受給者は口座に振込済
上記以外は申請受付中

② お誕生日おめでとうギフトの説明

本年4月から開始
当市で生まれたお子様に5千円分のQuoPayまたは商品券の贈呈

③ コバトンベビーギフトの説明

本年4月からの県の事業（市の事業と連動）
1万円分の約6種類のPalシステムのセットから選べる

④ こども医療費対象年齢拡大の説明

中学生までの窓口無償化を本年10月診療分から高校生まで拡大する
現在申請受付中

⑤ 西武線全車両広告掲示の報告

「たのしい！住みたい！さやまし」5/18～6/19掲示済

〔次回のお知らせ〕事務局より

- ・アンケート調査素案の提示、10月開催を予定

〔10月の委員改選に伴う挨拶〕

部長：令和3年10月から本年9月まで委嘱させてもらった委員の皆さまには審議いただきありがとうございました。ここで改選という形で10月から新しい方に委嘱したり、引継ぎをする形になると思います。いくつかの会議に参加しているが、この会議の委員さんは意見が活発で、事務局とのやり取りだけでなく委員同士の意見交流があり、こちらの参考にさせてもらっている。ここで終わられる委員の方には、本当にありがとうございました。また引き続きお願いする委員の方には、どうぞよろしくお願ひします。本当にありがとうございました。

会 長：これをもって本日の議事を終了します。

4 閉 会

〔副会長から〕

- ・事前に意見をいただいたことで、限られた時間の中ですること無い沢山の意見が集まったと思う。
- ・特にアンケートを形式から大きく変えることは難しいと思うが、意見の中で、例えばアンケートで数字に出にくい外国籍の子供の話や、障害を持っているお子さんの話などは、計画段階で含んでいかなければならないというところで、アンケートの結果だけでなく、市と私たちの方で計画策定のときには考えていかなければならないと感じた。
- ・今日の話の中で一番感じたのは、今回子供たちを巻き込んでやっていく段階に突入するのだが、子供たちの意見を聴いて「計画に役立ててやろう」なんでおこがましいことと感じた。子供は私たちが考えている以上にしっかり考えて責任をもって取り組んでいる話を聞くと、「子供たちのためにやる」のではなく、「子供たちと一緒に次々の段階の狭山の子育て支援を考えていく」と私たちが思わなくてははいけないと感じた。何のためにこれをやるの？と聞かれたときには、「あなた達のためと妹や弟、後輩たちのための狭山を考えていこう」という意識を持つことが大事だと思った。ただし、子供と同じ目線ではなく、大人として責任をもって子供たちの意見を取りまとめていくことが必要だと思う。
- ・それぞれの立場で子供たちと関わりながら「狭山の子育て支援が良い」となるにはより良い子育て環境が整うように、安心して過ごせる地域ができるように、頑張っていかななくてははいけないと思う。
- ・委員の皆様には引き続きよろしく申し上げます。
- ・令和5年度第1回狭山市子ども・子育て会議を終了します。ありがとうございました。

～以 上～